

よくあるご質問

公募助成（活動・研究）に関する「よくあるご質問」をまとめました。募集要項とあわせて、申請に際しての参考にしてください。

Q. 東日本大震災（or 台風 12 号）の被災者支援の活動で申請する場合、自動的に「特別枠」に割り振られるのですか。それとも申請者がどちらかを選択するのですか。

A. 東日本大震災（or 台風 12 号）の被災者支援に関する活動等を行う場合は、申請書で「特別枠」に○をしていただきます。

なお、「特別枠」で申請する場合は、「1年以上の活動実績」や「継続助成連続3回まで」といった制約はありません。他の条件は通常の活動助成と同様であり、「特別枠」であるかどうかは審査に影響しないことから、たとえ「特別枠」に○が無い場合でも、内容を審査して該当する場合は全て「特別枠」とし受け付けることとなります。

Q. 「特別枠」は500万円以上を確保するとありますが、上限はあるのですか。

A. 「特別枠」について、最低500万円を確保する考えであり、上限を設けているわけではありません。

「特別枠」の申請内容を審査した結果、充実した内容の申請が多い場合は、500万円を超えて採択されることもあります。500万円は目安額でもありません。

Q. 「継続助成は連続3回まで」とありますが、具体的にはどのように計算するのですか。

A. 平成23年度を助成期間とした助成（10A…）を起点として、3年連続で助成対象となった活動については、4年目の公募助成にはご応募いただけません。

（例1）平成23年度を助成期間とした活動が最初に採択された場合

助成期間	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
継続年数	1年目	2年目	3年目	4年目
助成の可否	○	○	○	×

（例2）平成22年度を助成期間とした活動が最初に採択された場合

助成期間	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
継続年数	参入しない	1年目	2年目	3年目	4年目
助成の可否	○	○	○	○	×

なお、同じ団体の方が連続してご応募いただく場合であっても、活動内容が異なっていれば、継続とはみなしません。

Q. 「近畿2府4県に拠点のある」ことが条件となっていますが、例えば東京に本部がある組織の大阪支部が行う活動は対象となるのですか。

A. 「近畿2府4県に拠点のある」支部等が活動の中心となるのであれば対象となります。

Q. 代表研究者は近畿2府4県の研究機関に所属しているが、共同研究者が近畿2府4県の研究機関に所属していない場合、研究助成の対象となりますか。

A. 代表研究者が近畿2府4県の研究機関に所属している場合、共同研究者が近畿2府4県の研究機関に所属していなくても対象となります。

Q. 活動助成の要件に「1年以上の継続的活動実績」とありますが、厳密に1年以上の活動実績が証明できる必要がありますか。

A. 厳密に「1年以上」である必要はありません。助成対象となった活動が実質的に遂行できる団体であるかどうかの目安の一つと考えていますので、募集開始時点（平成24年10月1日）で厳密に1年以上の活動実績が無い場合でも対象となりえますので、ご相談ください。

※ 第2号「上記(1)①及び②の条件を実質的に満たすものとして当財団が認める団体」

Q. 活動経費のうち、どのくらいの割合を助成してもらえるのですか。助成を申請する事業の半額までを助成するといった制約はあるのですか。

A. 活動助成の場合、1件あたりの助成額の上限を100万円としていますが、100万円必要な事業を行う場合であれば、その全額を助成することが可能です。また、総額で50万円かかる事業を行うにあたり、既に20万円の財源があることから、当該助成金を30万円申請することも可能です。

Q. 自己負担金があるほうが採択されやすいといったことはありますか。

A. 自己負担金の有無は審査には影響しません。

Q. 1つの団体で複数の事業を行っているが、申請できるのは1団体で1事業だけですか。

A. 1つの団体から複数の事業をご応募いただけます。

Q. 法人格は無くてもよいとありますが、自治会や学生サークルも非営利の民間団体として対象となりうるのですか。

A. 地域の自治会、学生サークルも対象となります。これまでも採択された実績があります。

Q. NPOの研究機関に所属する立場で研究助成を申請することはできますか。

A. 申請条件を満たしていませんので、助成対象となりません。

財団処理欄

受付

提出日

平成24年

10月12日

JR西日本あんしん社会財団 御中

〔記入例〕

平成25年度活動助成申請書

1. 助成金により実施される活動等

(1) 申請分類

今回の申請が当てはまるものにチェックを入れてください。なお、平成24年度に助成を受けている団体が、平成25年度は別の内容の活動で申請を行う場合は、「新規助成」とします。

<input checked="" type="checkbox"/>	新規助成	<input type="checkbox"/>	継続助成(平成24年度助成対象活動)
<input type="checkbox"/>	特別枠	東日本大震災又は平成23年台風12号災害に関する支援活動	

(2) 活動名称 / 助成金申請額

活動名称	身につけよう救命処置!!
助成金申請額	70 万円(1万円未満の端数を切り捨てた額)

「活動名称」は分かりやすい簡潔な名称を記入してください。

2. 申請団体

団体名	ふりがな	えぬびーおーほうじんにしにほんあんしんしゃかいねっとわーく						
	団体名	NPO法人西日本あんしん社会ネットワーク						
設立年月日(経過年月)		2009 年 4 月 1 日 (平成24年10月1日現在、設立後 3 年 6 月)						
団体種別		<input type="checkbox"/>	任意団体	<input checked="" type="checkbox"/>	NPO法人	<input type="checkbox"/>	その他:(詳細)	
所在地	〒	530		8341				
	ふりがな	おおさかしきたくしばたにちょうめよんばんにゅうよんごう						
	住所	大阪市北区芝田二丁目4番24号						
	電話	06-6375-3202		Fax	06-6375-3229			
	E-mail	info@jrw-relief-f.or.jp						
	URL	http://www.jrw-relief-f.or.jp						
代表者名	役職	理事長	ふりがな	にしにほん たろう				
			氏名	西日本 太郎				
申請担当者名	役職	事務局長	ふりがな	こうぼ いちろう				
			氏名	公募 一郎				
団体の構成員	総数	34 名 (会員等団体に関係する総人数を記入してください)						
	(再掲)	7 名 (うち、通常活動する際に従事する役員及び構成員数を記入してください)						
団体の活動目的								
団体収支	収入	費目/内容	前年度決算(円)		当年度予算(円)			
		会費収入	¥	434,500	¥	550,000		
		事業収入	¥	1,953,930	¥	2,350,000		
		助成金収入	¥	500,000	¥	700,000		
		雑収入	¥	30,315	¥	30,000		
	支出	事業費	¥	2,195,080	¥	2,688,000		
		管理費	¥	678,932	¥	900,000		
			収支差額	¥	44,733	¥	42,000	

別途添付の場合、チェックを入れてください

団体の活動目的、団体収支は簡潔に記載していただければ結構です。

3. 助成活動計画

<記入方法> 助成金により実施される活動の計画を項目毎に以下のとおり記入してください。

上段：概要を箇条書きで分かりやすく2行以内にまとめてください。

下段：内容を詳細に記入してください。

各項目において補足説明等が必要な場合は、P.4の「6. 補足記入欄」に記入してください。

<p>【目的、成果】 この活動を行う目的や活動を行うことによる成果を記入してください。 継続助成の場合は、継続の必要性についても記入してください。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 緊急時には、近くの人々による初期救護が大切であり、知識や技術を身につけておく必要性が高い。 死亡率が90%を超える心肺停止からの5分間に、周りの人が適切な救命処置ができその低減を図る。 <p>総務省消防庁によると、平成23年中の救急車の出場件数は570万件にものぼり、この10年で約30万件も増加しています。事故・災害時だけでなく、普段の生活の中で身近で人が倒れることも珍しくないのが実態です。救急車が現場に到着するまでの平均時間が約5分であり、この僅か5分間の空白が急病人のいのちを大きく左右します。ゆえに、近くの人々による初期救護が非常に重要となり、これを適切に行うためには日頃から応急手当の知識と技術を身につけておく必要があります。</p> <p>これまでの活動を通じ、平成23年10月に、大阪環状線のある駅において突然お客様が倒れ心肺停止の状態となりました。居合わせた2名のお客様が胸骨圧迫を行い、車掌がAEDを使用し、2回の電気ショックで意識が回復すると共に、その後の救急隊員による救命処置でいのちが救われるという事例がありました。</p> <p>このような啓発稼働により、一人でも多くのいのちが救われ「安全」で「安心」な社会構築の一助となればと考えます。</p>



<p>【実施方法、内容】 この活動の実施方法、内容を記入してください。 下段には、内容に関する詳細とあわせて具体的な活動スケジュールを記入してください。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 定期的に参加しやすい場所で、具体的な救命処置の啓発活動を実施。 啓発活動では、応急手当普及員と一緒に心肺蘇生法やAEDの使用法を体験してもらう。 <p>開催場所の自治体や各消防署等と協力し、救命処置の啓発活動として「救命フェア」を開催し、現在たくさん設置してあるAEDの操作方法が分からず「怖い」や「特別な人が操作するもの」といった先入観を払拭し、目の前で誰かが倒れたら勇気を持って行動することで、1人でも多くのいのちが救えることにつながる活動とする。</p> <p>心肺蘇生法については、「応急手当普及員」の資格を持ったスタッフと共に心肺蘇生法の手順を書いた応急手当講習受講証をお渡しし、人体模型を使って実際に体験していただくことで実践に備えます。</p> <p>また、AED（自動体外式除細動器）については、その仕組みを理解していただくと同時に、AEDの音声ガイダンスに従い、人体模型を使った正しい取り扱いと、「誰にでもできるんだ」ということを知っていただくことで、もしもの場合、その取り扱いが出来る人を増やすことで救えるいのちを増やす取り組みとします。</p>

時期	活動事項	活動の具体的内容
5月26日(土)	公園 広場で救命フェア開催	同日開催のフリーマーケットと共催し参加を募る
6月16日(土)	× 学園で救命啓発活動実施	学生ボランティアの協力のもと学校全体の取り組みとする
9月1日(土)	× 地区防災の日訓練で救命フェア開催	地区で行う訓練に参加し啓発活動を行う
9月8日(土)	× 百貨店屋上で救命の集い開催	催し物広場でより多くの参加者を募る
9月17日(土祝)	× 連合自治会共催救命フェア開催	連合自治会で行う訓練にブースを設けて参加する

4. 行政機関、公的団体、財団法人などの他団体等からの助成状況

(平成24年度の実績及び平成25年度の見込みを記入してください。なお、各表の「状況」の欄には、『助成中』、『申請中』、『終了』等現在の状況を記入してください。)

平成24年度における助成実績 当財団から助成を受けている場合は、その旨も記入してください。

他団体名等	テーマ	助成金額(円)	助成期間	状況
JAPAN財団 近畿財団	応急処置普及員の養成 A E Dの普及	200,000円 500,000円	H24.4~H24.9 H24.4~H25.3	終了 助成中

平成25年度の助成見込(現在応募中若しくは既に決定しているもの)

他団体名等	テーマ	助成金額(円)	助成期間	状況
JAPAN財団 OSAKA財団	応急処置普及員の養成 A E Dの普及	200,000円 600,000円	H25.4~H26.3 H25.4~H26.3	申請中 申請中

5. 活動収支

・助成活動に関する全収支計画を記入し、「活動資金」の合計額と「使途(内訳)」の合計額との金額が一致するようにしてください。

・当財団からの助成金の使途が分かるように、助成金を使用する項目では「(内 助成金充当額)」の欄に、使用する助成金額を再掲してください。

・各項目における計画額の内訳と算出根拠を「内訳・算出根拠」の欄に記入してください。

項目	計画額(円)	(内 助成金充当額)	内訳・算出根拠	
活動資金	当財団助成金	¥ 700,000	1万円未満の端数を切り捨てた額を計画額に掲載 講演事業活動費 企業からの寄付金	
	自己資金	¥ 70,000		
	利用者等負担金			
	その他	¥ 30,000		
	計	¥ 800,000		
使途(内訳)	旅費交通費	¥ 112,000	¥ 112,000	22,400円×5回 イベント時のバス及びタクシー代
	会議費	¥ 165,000	¥ 165,000	33,000円×5回 会場代及び飲料
	通信運搬費	¥ 160,000	¥ 160,000	32,000円×5回 会場への備品類運搬
	消耗品費	¥ 23,000	¥ 23,000	イベント時の物品
	備品費	¥ 215,000	¥ 115,000	57,500円×2体 救命講習用人体模型
	印刷費	¥ 43,000	¥ 43,000	広告チラシ及び会場配布資料
	人件費	¥ 82,000	¥ 82,000	1回@8,200円×2人×5回 イベント事務局スタッフ
計	¥ 800,000	¥ 700,000		

6. 補足記入欄

上記の他に助成金により実施される活動に関して特に補足説明することがあれば記入していただいても構いません。

但し、次の項目に該当する場合には、必ず記入してください。

既に当財団から助成を受けている場合には、その活動状況や課題、継続助成の必要性

特別枠 東日本大震災又は平成23年台風12号災害に関する支援活動

への申請の場合には、活動参加者の災害支援経験、専門知識、公的資格等活動実施時の強み

J R 西日本は、1987年の発足以来、鉄道事業を核とした地域に密着したサービスの提供を通じ、地域社会の発展に寄与することに努めてまいりました。

しかしながら、2005年4月25日、福知山線において106名のお客様の尊いお命を奪い、500名を超える方々にお怪我を負わせるという極めて重大な事故を惹き起こし、公共交通機関としての鉄道の安全に対する信頼を大きく失墜させることとなりました。私どもは、事故直後より被害に遭われた方々への精一杯の対応と安全性の向上に努めてきているところです。

そうした中で、被害に遭われた方々の深いお悲しみやお苦しみに触れ、心身両面にわたる長期的なケアの重要性を痛感するとともに、地域社会の皆様からの「安全」を求める切なる声を改めて認識いたしました。

このような認識のもと、J R 西日本では、これまでも地域社会の皆様に対して様々な形で啓発活動などを行ってまいりましたが、多くのお客様のかけがえのない尊い命をお預かりしている企業として、重大な事故を惹き起こしたことの反省の上に立ち、「安全で安心できる社会づくり」の一端を担いたいとの思いから、この度、将来にわたり持続的、安定的に社会にお役に立つ取り組みを行っていくために、「J R 西日本あんしん社会財団」を設立することとしました。

この財団は、こうした設立の趣旨を踏まえ、広く事故や災害により被害に遭われた方々などへの精神面、身体面でのケアに関わる活動や地域社会における安全構築に関わる活動に対する支援及び安全に関する啓発活動を行うものがあります。